

## シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理⑰ —サンシュユ—

日本樹木医会富山県支部  
樹木医 西村 正史

春には黄色い花を咲かせる多くの花木がありますが、今回は秋に果実も楽しむことのできる花木、サンシュユを紹介합니다。

### 1. 特徴

サンシュユは、朝鮮半島原産で、高さは4～5m程度の落葉性樹木です。元々は薬用植物として江戸時代中期に朝鮮から持ち込まれましたが、現在では春を告げる花木のひとつとして、切り花や庭木、公園樹として親しまれています。

3月上中旬から4月上中旬にかけて、葉が芽吹く前に黄色い小花を枝いっぱいに咲かせます(図-1)。満開の花が黄金色に輝くように咲く姿から「ハルコガネ」の別名があります。

秋になると、グミに似た1.5～2cmの楕円形で光沢のある果実をつけます(図-2)。果実は10月頃から真っ赤に熟し、翌年の1月中旬頃まで枝についており、長い期間楽しむことができます。果実がたくさん着いている様子から、「アキサンゴ」とも呼ばれています。この果実は食用になり、味はやや渋みのある甘酸っぱさがあります。滋養・強壯の薬効がある山茱萸(サンシュユ)酒をつくることもできます。

葉は対生で、長さ8～10cmで、中脈に対して丸みをもった側脈が6～7対あります(図-3)。このような葉の特徴は、ミズキ科に共通しています。

なお、宮崎民謡の「庭のサンシュユ♪」という稗搦節(ひえつきぶし)に出てくる歌詞の「サンシュ」は、ミカン科の山椒(サンショウ)のことで、サンシュユではありません。



図-1 サンシュユの花。右上の写真は小花を拡大したものです。2011年4月1日に撮影。

### 2. 維持管理

サンシュユの花芽は短い枝の先端に付き、長く伸びすぎた徒長枝には付きません。この長く伸びすぎた枝を短く切り戻して整えるのが基本の剪定です。長い枝を切り、短く太い枝を増やすことで花付きもよくなります。枝分かれしている付け根から短い枝ごとばっさりと切り詰めてしまうと花芽ごと枝を切り落とすことになり、花付きが悪くなりますので気を付けましょう。剪定は落葉期に実施してください。

なお、サンシュユは水はけの良い土であれば特に土質は選ばず、普通の庭土なら問題なく育ちますので、庭木として優れています。



図-2 サンシュユの実。右上の写真は実を拡大したものです。2009年12月17日撮影。



図-3 サンシュユの葉。2012年5月7日撮影。

※写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。